

「会員の広場」への寄稿

黒田光洋氏による、

「中堅中小企業の IT 活用のカギは『ひとり情シス』にあり」にご注目を！

この記事は、中堅中小企業の方だけでなく、大手企業や教職員、自治体の方、それに退任された方にもお役に立つ内容です。

黒田氏は10人ほどのIT管理部門の一員でした。それが人員削減によって、現在は一人で10人分の仕事を受け持つとともに、新規の経営ニーズに叶うシステムを構築し運営しておられます。そんなの嘘だと思われるでしょうけれど、実績を示しておられるので事実です。その実現の概要をこの記事で述べておられるので、ぜひお読みいただきたいと思います。そして、ご感想などを、この「広場」に投稿して中堅中小企業の情報システムの課題解決の話題で盛り上がりませんか。

内容は黒田氏の記事をお読みいただくとして、「ITの進化したことで一人が有利になってきた」は、万人に共通した示唆として受けとめたいと思います。

皆様は、ネットに聞けばいろんなことが分かると実感しておられるのではないのでしょうか。私の身近にも、質問するとネットからたちどころに情報を取りだして教えてくれる若い人がいて、いつも感心しています。黒田氏は、記憶力が衰えても必要な情報はネットから引き出せば良いではないか、ネットには最新・最良の情報もあるので、古い記憶に頼る人より有利であるとも説いておられます。脳力の衰えを実感している私にとっては飛びきりの朗報です。

黒田氏の「ひとり情シス」にも死角があるかも知れません。それについては今後の議論に待ちたいと思います。一方で、黒田氏が示しておられる「ひとりが有利」ということは、情報社会の仕事のあり方に大事なヒントを与えていると思います。氏の考え方を応用すれば、大手企業の、ベンダに頼るシステム開発・運用の体質も変革できるかも知れません。分業が仕事を生み、組織を拡大して硬直化をもたらしている面があると思えるからです。黒田氏がいみじくも指摘しておられる「私が自社の情報システムを立て直すときに悩まされた事は、IT技術スキルや方法論よりも日本の企業文化や風習と日本のIT業界の体質であった」に耳を傾ける必要があると考えます。

中堅中小企業における情報システム活用の話題で、当学会メルマガの「会員の広場」、「私の主張の会」や研究発表大会が盛り上がることを期待しつつ、筆をおきます。

2015年9月20日

魚田勝臣